

東都医療大学図書館通信

2018年 成年の幕開けです!



(左から)『マーリー 世界一おバカな犬が教えてくれたこと』ジョン・グローガン/著、古草秀子/訳、早川書房/刊 // 『ハッチ&リトルB 小さな男の子と大きなワンコの奇跡のような本当のお話』ウェンディ・ホールデン/著、有澤真庭/訳、竹書房/刊 ※現在は絶版 // 『ベイリー、大好きセラピードッグと小児病院のこどもたち』岩貞みこ/著、澤井秀夫/写真、小学館/刊 // 『動物介在療法 セラピードッグの世界—あなたの愛犬も「名犬チロリ」になれる!—』大木トオル/著、日本経済新聞出版社/刊

2018年成年(いぬとし)。皆さんの今年の抱負は何でしょうか。もし、まだ定まっていない人がいるようでしたら、ぜひ「昨年より1冊でも多くの本を読むこと」を目標として、本と触れ合う1年にしていただけたいと思います。

さて今回は、成年にちなみ、「犬」を主人公とした本を紹介させていただきます。まず1冊目は、早川書房より刊行されている『マーリー 世界一おバカな犬が教えてくれたこと』(ジョン・グローガン著)。この本は、世界中の愛犬家から絶大な支持を得てベストセラーとなったエッセイです。物語は、作者が幼い頃出合った1匹のワンちゃんを飼うところから始まります。その犬の名はショーン。雑種犬ですが、とても利口で、命令や指示はほぼ理解し、親戚や近所の人たちに「犬を飼ってみたい!」と思わせるくらい、品行方正なワンちゃんでした。14年の時をともに過ごし、ショーンは天に召されますが、作者にとって犬とはショーンそのもの。それ以降、作者が犬を判断するときは、すべて「完璧な犬・ショーン」を基準としていました。

年月が経ち、作者は結婚しますが、ある日子育ての練習にとラブラドル・レトリバーの仔犬を飼うことにします。名前はマーリー。ラブラドル・レトリバーは

「頭がよく、人懐こく、どんな仕事でも忍耐強くこなす」「驚くほど忠誠心が強い」などと評され、昔飼っていたショーンを思い出させる性質でした。「またもや良い犬に出合った」と満足していた作者ですが…。

マーリーは、作者の期待とは裏腹に、すっかりお間抜けな犬へと成長していきます。落ちているものは何でも飲み込んでしまう、網戸は破って出入りしない気が済まない、大好きな人はいつもよだれで大歓迎…。マーリーのやんちゃな行動に、作者夫婦はてんてこまい。昔飼っていたショーンとは大違いです。こんなはずでは…と振り回されればなしの作者とその家族ですが、「支え合って生きていくことの素晴らしさ」をこのマーリーから学んでいきます。また、「人間が大切だと思っているけど、本当は大切でないもの」もマーリーから教えてもらった、と作者は本に記しています。

マーリーを中心に、笑いあり、涙ありのハートフルな1冊。愛嬌たっぷりで憎めない無邪気なマーリーに、貴方もきっと魅了されるはず。

2冊目は、竹書房刊行の『ハッチ&リトルB 小さな男の子と大きなワンコの奇跡のような本当のお話』(ウェンディ・ホールデン著)。こちらはあるテレビ番組でも紹介され話題となった本です。電車で轢かれ、3本脚での生活を余儀なくされた大きなワンコ“ハッチ”と英国でただ1人という難病を抱えている少年“オーウェン”とが、のちに「運命的な出会い」と言わしめる数々の奇跡を起こし、世界中の人々に勇気と感動を与えていく物語です。嘘みたいな本当のお話。胸を打つ、犬と人間との実話です。(現在は絶版となっています。) 続いて、3冊目は『ベイリー、大好きセラピードッグと小児病院のこどもたち』(岩貞みこ著/小学館)。こちらは、セラピードッグを常駐させるという、日本初の試みを取り入れた静岡県立こども病院での記録です。アメリカではすでに行われているものの、日本では初めてとなる病院常駐のセラピードッグ。気候の違う日本では、アメリカでは例のない感染問題が起こる可能性もあるため、様々な団体が実現に向けて検討を重ねました。慎重な始まりとなったセラピードッグですが…。ベイリーの登場は効果抜群でした! ベイリーと触れ合うことにより、こどもたちの入院生活が次々と変化していったのです。「ベイリーのおかげで頑張れたよ」「ベイリーありがとう」。医師や看護師も驚くほどの活躍をみせるベイリー。ベイリーと子どもたちとの心温まる交流に、思わず顔がほころびます。

犬を主人公とした本は、まだまだたくさん出版されています。ぜひ、お気に入りの1冊を見つけてみてはいかがでしょうか。

ちょっとした気配り、学びませんか?



『熊手もよるこぶし』ももろしい/オトナ女子の氣くばり帳(氣くばり読書委員会編/サンクチュアリ出版)

12月中旬~2018年1月中旬までに納品された図書など

- ◆図書◆ 『図説 国民衛生の動向 2017/2018』『厚生労働白書 平成29年版』『女性労働の分析2016年』『介護白書 平成29年版』『食品衛生小六法 平成30年版』
- ◆DVD◆ 『見直そう! あなたの生活習慣 全2巻』『死の四重奏』『わかる! できる! バイタルサイン測定 全2巻』『目で見える災害看護 全2巻』『パパもいっしょに見たい! 聞きたい! はじめての赤ちゃんのこと 全3巻』『日の名残り』『高齢者の痛みの管理』『体と運動機能の衰えに対するケア』『せん妄・認知症・うつ病』『アカデミック・ハラスメント 第1巻』

◆雑誌◆ ※下記 OPAC をご参照ください。
<http://www.lib-finder2.net/tohto/servet/New?findtype=1>

春・医療系図書が10%OFFで購入できます!

展示販売のお知らせ	
展示販売	納品
書籍展示は、 2018年4月下旬に再開予定 です。	
それまでの間、本を購入したい場合は、 廣川書店へ直接注文して下さい。	
<廣川書店 連絡先> TEL:027-322-4804 Mail: takasaki@hirokaawa-books.co.jp <small>※注文の際は、必ず、大学名、学生番号、氏名を伝えて下さい。</small>	



『ずっと健康だと思ってた。34歳脳こうそく克服記』
有田奈央著、麻生夕貴絵、イースト・プレス刊

息抜きに読んで病者の思いを学んでしまえるコミック

精神看護学領域 講師 山口恵

新年を迎え、自宅近くの神社へ初詣に行ってきました。毎年願掛けは決まっているので今年こそは違う願いを！と意気込んでいたところ、お賽銭を投げた瞬間にその思いはすっかり忘れ「みんなが健康でありますように」といつもの言葉をこころの中で呟いていたのです。昨年暮れのJ:COM調査では、初詣の願い事のトップは「健康・家内安全」59%という結果が出ていました。60%近くの人が願うということは、月並みではありますが一番大切なことなのかもしれないですね。思い起こしてみれば、健康でありますようにと思うようになったのはいつ頃からだったのか、今では思い出すこともできません。

さて、皆さんは本をよく読みますか？漫画はどうですか？今回ご紹介する本は『ずっと健康だと思ってた。34歳脳こうそく克服記』（有田奈央著、麻生夕貴絵、イースト・プレス刊）です。この漫画家（以下有田さん）は突然脳梗塞になってしまい、本当は辛くて大変な日々のはずなのに、それを面白可笑しく漫画とエッセイで綴っており、病気の知識や病者の気持ちなどを楽しみながら勉強できてしまうという一石二鳥なコミックエッセイです。

患者さんは入院すると、普段の生活とは全く違う日常が待っています。看護師は、患者さんの看護に当たるわけですが、どれだけ患者さんのいろいろな気持ちに気付くことができるのでしょうか。脳梗塞になってしまった有田さんは、できなくなってしまったことに向き合いながらコミックを通じて私たちに伝えてくれています。例えば、トイレに行きたくても半身麻痺で力が入らない。看護師「オムツでします？付き添いでトイレに行きます？」有田さん「オムツでするなんて嫌！嫁入り前なのよ！」看護師「じゃあ、パンツを下ろして便座に座るところまでお手伝いしますね」有田さん「!!!それは自分でできるわ。右手使えるし」看護師「でも万が一転んだら」有田さん「私を信じて、お願い」というような会話は彼女の人並みでいたいという気持ちと現実の厳しさ、そしてケアをする側の立場などが如実に現れていて思わず頷いてしまいました。その他にも、家族のこと、リハビリのこと、お金の問題、退院後のことなど立ち止まっている暇はありません。そんな日常をたくましく生きていく有田さんと多くの病者の方々にエールを贈りたいと思います。

このコミックエッセイの他にも、漫画家さんたちによる乳がん、パーキンソン病、難病などの闘病記があります。インターネットで検索をすると本の紹介が出ていますので、興味がありましたら手にとって見て下さい。



ブリュゲル展 画家一族150年の系譜

16世紀より150年という長きにわたり、優れた画家を輩出してきたブリュゲル一族。一族の祖であるピーテル・ブリュゲル1世は、当時としては珍しく、現実世界をありのままに表現する革新的な画風を特徴としてきました。彼の画風は息子やその子孫たちへと受け継がれ、ここからブリュゲル一族の絵画様式と伝統とが築き上げられていきます。

本展では、宗教画をはじめ、風景画、寓意画、静物画など通常見ることができない個人所蔵の作品を中心におよそ100点が展示されます。その多くは日本初公開であり、これだけ多くの作品が一堂に会することは、大変希少な機会です。ブリュゲル一族と16、17世紀フランドル絵画の数々を目に焼きつけてみませんか？



(上)ピーテル・ブリュゲル1世(下)、ピーテル・ファン・デル・ヘイデン(彫版/最後の審判)1558年 Private Collection/(下左)ヤン・ブリュゲル1世、ヤン・ブリュゲル2世(机上の花瓶に入ったチューリップと番傘)1615-1620年頃 Private Collection/(下中央)ヤン・ブリュゲル1世(沐浴をする人たちのいる川の風景)1595-1600年頃 Private Collection, Switzerland/(下右)ヤン・ファン・ケッセル1世(蝶、カブトムシ、コウモリの習作)1659年 Private Collection, USA/

清々しい年明け



2018年元旦。晴天に恵まれ、清々しい年明けとなりました。皆さんはお正月休み、どのように過ごされましたでしょうか。4年生は国家試験目前。図書館内も以前より緊張感が増したように感じます。「知は力なり」。試験勉強は、今後、自分を助ける知識ともなります。苦しい時期ではありますが、ぜひ自分に負けず、頑張ってください！

会場：東京都美術館 (〒110-0007 東京都台東区上野公園8-36) 会期：2018年1月23日(火)~4月1日(日) 休室日：月曜日、2月13日(火) ※ただし、2月12日(月)は開室 開室時間：9:30~17:30 *金曜日は9:30~20:00。*入室は閉室の30分前まで。 観覧料金：一般 1,600円/大学生・専門学校生 1,300円/高校生 800円/65歳以上 1,000円 *中学生以下は無料。*身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳・被爆者健康手帳をお持ちの方とその付添いの方(1名まで)は無料 *いずれも証明できるものをご持参ください 公式サイト：<http://www.ntv.co.jp/bruegel/> お問合せ：03-5777-8600 (ハローダイヤル)